

第3回気仙沼市東日本大震災遺構検討会議について（開催報告）

1 開催概要

日 時：平成26年12月25日（木）午後3時～午後5時10分

場 所：気仙沼市役所 ワンテン庁舎大ホール

出席委員：11名（委員12名中）

2 説明内容

（1）今後の開催スケジュールと検討内容

（2）配布資料に基づいた説明

- ①現地調査報告（資料1）
- ②保存対象の検討（資料2）
- ③機能の展開案（資料3）
- ④活用策の検討（資料4）

3 意見交換

主なテーマ：上記資料3、資料4の内容について

【委員から出された主な意見】

- 資料4に示されている南校舎だけをそのまま遺す案（E案）については、食の場の提供等による人を集める機能が不十分と思われるため反対である。北校舎や総合実習棟を再利用して、多くの人に来てもらう施設整備が必要である。
- 資料4で提示されている震災遺構の一部である北校舎等を食の場や展示施設として再利用することは倫理的によくないことに加え、管理面積が大きく管理費用も多額となることが想定されるため反対である。遺構となる校舎は全てそのままの保存とし、集客の機能は別棟を新たに建設して展開するべきであり、コストも抑制できると考える。
また、遺構の中の見学は、鍾乳洞の中を見せるような形式を検討されたい。
- 遺す目的を明確にし、資料3に記載されている多過ぎる施設の提供機能に優先順位を付け、遺構として見せる部分も特定する必要がある。また、既存施設の再利用については、安全上使えるのであればその可能性はありと考える。
- 遺構を外側からだけでなく、中の被災状況を見学できる仕組みが必要である。また、北校舎等を再利用する場合は研究室や資料室の活用とし、食の場等の提供は別棟での展開とされたい。
- 資料4では、南校舎の屋上を活用する案がない。周辺を一望できる屋上の利用価値は高いので、活用について検討されたい。
- 整備・維持コストの観点から南校舎の中に入れさせることが難しければ、近くに高い別棟を建ててそこから南校舎の被災ポイントをみせることも検討されたい。
- 震災遺構として必ず遺す部分の優先順位付けが必要である。保存する部分以外の提供機能は別棟での展開が理想ではあるが、各種整備・維持コストの算定と予算案がつかないと具体的な検討が難しい。
- 維持コストの算定の際は、維持管理する人員数の想定も必要である。